

## 広島・草戸千軒町遺跡

からは土師質土器・青磁碗・箸状木製品などが出土している。

### 8 木簡の釈文・内容

- 1 所在地 広島県福山市草戸町  
2 調査期間 一九七八年(昭53)二月~十二月  
3 発掘機関 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
4 調査担当者 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所代表 松下正司  
5 遺跡の種類 集落跡  
6 遺跡の年代 鎌倉~江戸時代  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本年度は中洲北部を調査し、柵に囲まれた集落の一端が明らかになつた。木簡はSK-11100土壙、SE-1501・1682井戸、SD-1375溝、SG-1710池などから出土した。このうちSK-13100からは長方形の板材に墨書したものが五二点、SE-1501から削屑が六六六点出土している。SK-13100は長径七・九m短径六・二m×深一~一・二mを測る土壙で、底部には青灰色土層が、上部には黒灰色土層が堆積しており遺物が多量に出土した。出土状況から単なるごみ捨穴ではないようと思われる。SE-1501は径二・五~三mの掘方に一辺約一mの横桿型井戸側を据えたもので内部には暗灰色粘質土が堆積していた。

SK-13100からは多量の土師質土器や古錢・石鍋・木製品(漆器・箸状木製品・下駄・草履状木製品など)などが、SE-1501

(1) 「くみあかしのれうニあふら  
一かうを二百十文ニ□かう  
きのしゃうのあふら」

(2) 「くみ□よと九めと百八十□□  
やかへのをと二郎らい十月

295×34×7 032

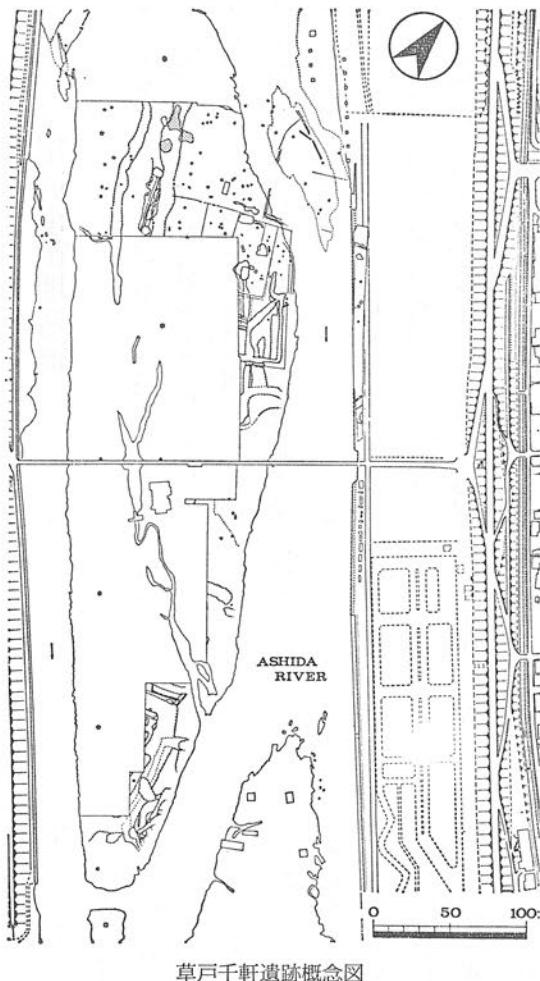
Bタイプに属する付札。御灯明用の油一合を二百十文で「きのしゃう」(木之庄か)から買ったことを示す。

「くみ□よと九めと百八十□□  
一かうを二百十文ニ□かう  
きのしゃうのあふら」

□く□三六月廿三日」

295×59×7 032

来る十月にやかへ(坂部か)のをと二郎に用立てることを記した一種の覚えでBタイプの木札。「きのしゃう」「やかへ」は共に



草戸千軒遺跡概念図

- 山県元ほか  
「草戸千軒町遺跡第一四次発掘調査概要」  
(同右六八)  
小都隆ほか  
「草戸千軒町遺跡第二六次発掘調査概要」  
(同右六九)  
一九七九年

このほか折敷片に人名を記したものや、柿経、  
削屑、断片など総計七三六点が出土している。  
9 関係文献  
志田原重人ほか  
『草戸千軒町遺跡第一四次発掘調査概要』  
(調査研究ニュース『草戸千軒』六四)  
一九七八年

草戸に近接する農村と推察される。  
(3)  
・「<sup>(異筆)</sup>メうまミそのしらけ  
むき十一月廿四日」

十一月廿四日に精麦を取引きした時の付札。

「<sup>カ</sup>かね□□□□□四百□□□

あ□<sup>カ</sup>かし廿三

もと百とりふん□と□

」

「<sup>カ</sup>一はかりて□□十月廿日

六十□カミ□

□□ニ文

六十□カミ□

□□ニ文

カミを売買した時の覚え。

10×38×21 011

」

・「<sup>(異筆)</sup>メうまミそのしらけ  
廿一<sup>人</sup>と百とり□  
一<sup>人</sup>」

235×25×7 032

」

(倒書)  
」(右側面)

237×36×8 032

もと百とりふん□□□とりて一人

廿一<sup>人</sup>と百とり□  
一<sup>人</sup>」